

令和 8 年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

教師の授業改善を通して、言語活動の質を高め、外部検定試験等の客観的データを基に、4 技能をバランスよく育成し、児童の学習改善及び英語力向上を図る。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

R7教育課程研究会や各種研修会の事後アンケートより（県独自）

①言語活動における、目的や場面、状況の設定への意識が向上している。
②お互いの校内研究の行き来や授業参観や出前授業など、小中連携に取り組んでいる地域が増加。

未だ改善が必要な点

R7英語専科教員指導力向上研修会の事前アンケート結果より（県独自）

①授業中の言語活動の時間について50%以上の割合は9割を超えているが、4技能のバランスについては引き続き改善の余地がある。

②約3割の教師が、授業でICT機器を活用して、英語の音声を読みたり英語を話したりする練習を行っていない。

2. 要因分析

①② R2～R6県事業における授業実践の周知、R7オンライン学習会の実施、R7子供主体の授業実践推進事業推進リーダー公開授業等、好事例の共有や教師の学ぶ機会の拡充を図ったことにより、目的や場面、状況が明確化し、言語活動の質が改善傾向にあると考えられる。また、上記の公開授業や学習会において、校種を問わず参加可能とすることで、他校種の実践や学習指導要領の内容を知る機会となり、校種間連携への意識が高まったと考えられる。

①「聞くこと」「話すこと」中心の指導への偏りが見られ、「読むこと」「書くこと」に取り組む時間が確保されていない現状があり、4技能をバランスよく育成することを意識して言語活動を行っていないと考えられる。

②授業中の学習者用デジタル教科書等の活用状況について、家庭学習とのつながりが薄く、音声面での資質・能力の習得に課題があると思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②県内の授業実践事例や、各種研修会等を通して、「言語活動を通して指導すること」「単元を通して指導すること（バックワードな単元設計）」「中間指導（言語面、内容面の指導）の在り方」「ALTの効果的な参画」「系統的な目標と指導と評価」等についての周知・普及を引き続き図り、児童の英語力向上を目指す。特に、英語専科教員指導力向上研修会では、事務局の説明だけに留まらず、先生方の模擬授業（マイクロティーチング）を取り入れ、よりよい授業づくりに向けて、授業改善を図っていく。また、小学校教員の新規採用に関わり、英語に関する資格等を有する者への加点措置を引き続き実施していく。

①県事業及び総合教育センター研修との連携

子供主体の授業実践推進事業における英語推進リーダーによる授業公開及び研究会、教育課程研究会指導資料、総合教育センターの研修を通して、単元を通して資質・能力を育成すること、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられる言語活動の設定、評価等について、学ぶ機会を設ける。

②Yamanashi English Actionオンライン学習会の実施

全校種の英語教育に携わる教職員を対象に、授業改善について考え、意見交流する機会を持つ。令和8年度は、「テスト」「教科書の活用」「AI活用」「小中連携」「ALTとの協働」を取り扱う。

③山梨県外国語教育専用Webサイトの充実

外国語教育に関わる取組の情報発信の手段の一つとして、上記①②の研修や公開授業情報、研修会資料、アーカイブ動画配信を行う。小中高が連携した英語教育の一層の充実を目指す。

令和 8 年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

教師の授業改善を通して、言語活動の質を高め、外部検定試験等の客観的データを基に、4 技能をバランスよく育成し、生徒の学習改善及び英語力向上を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 47.5% ⇒ R8 : 48.0%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

R6全国学力・学習状況調査質問調査及び英語教育実施状況調査より

①発信領域の指導状況と生徒の受け止めのギャップが改善。

	R5	R6
やり取り	-10.8	-4.1
発表	-3.3	-0.3
書く	-3.8	-2.7

R7教育課程研究会や各種研修会の事後アンケートより (県独自)

②言語活動における、目的・場面・状況の設定への意識が向上している。

③お互いの校内研究の行き来や授業参観など、小中連携に取り組んでいる地域が増加。

①聞くこと・読むことにおける概要や要点を捉える活動では、生徒の受け止めとのギャップが比較的大きい。

②中学 3 年生で CEFR A1 レベル以上を達成した生徒の割合は目標値の 50% に届いていない。

③授業中の言語活動の割合について、地域間・学校間での差が大きい。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①② R2～R6 県事業における授業実践の周知、R7 オンライン学習会の実施、R7 子供主体の授業実践推進事業推進リーダー公開授業等、好事例の共有や教師の学ぶ機会の拡充を図ったことにより、生徒の発信力向上に資する言語活動の質が改善傾向にあると考えられる。

③上記の公開授業や学習会において、校種を問わず参加可能とすることで、他校種の実践や学習指導要領の内容を知る機会となり、校種間連携への意識が高まったと考えられる。

①聞くこと・読むことの指導に関して、文レベルの理解だけでなく、全体把握や読む目的を持たせるような言語活動の設定が不足している。

②英検 IBA(RL) の実施等、客観的に生徒の英語力を見取る機会を得られたが、受験結果を教師の指導改善、生徒の学習改善に生かす視点に課題がある。

③研修会情報等へのアクセス性が十分とはいえず、また、校内の英語科教員間での情報共有や相互授業参観など、連携・協働による学び合いの機会や意識に課題がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③県内の授業実践事例や、MEXT channel の動画を活用し、各種研修会等を通して、「言語活動を通して指導すること」「単元を通して指導すること (バックワードな単元設計)」「中間指導 (言語面、内容面の指導) の在り方」「ALT の効果的な参画」「系統的な目標と指導と評価」等についての周知・普及を引き続き図っていく。

①県事業及び総合教育センター研修との連携

子供主体の授業実践推進事業における英語推進リーダーによる授業公開及び研究会、教育課程研究会指導資料、総合教育センターの研修を通して、単元を通して資質・能力を育成すること、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられる言語活動の設定、評価等について、学ぶ機会を設ける。

②全公立中学校への英検 IBA(RL) の実施

分析結果を生かし、教師の指導改善・評価改善を進めるとともに、生徒が自分の英語力を知る機会として、生徒の学習改善、外部検定試験受験率及び資格取得の向上につなげる。

③Yamanashi English Action オンライン学習会の実施

全校種の英語教育に携わる教職員を対象に、授業改善について考え、意見交流する機会を持つ。令和 8 年度は、「テスト」「教科書の活用」「AI 活用」「小中連携」「ALT との協働」を取り扱う。

③山梨県外国語教育専用 Web サイトの充実

外国語教育に関わる取組の情報発信の手段の一つとして、上記①③の研修や公開授業情報、研修会資料、アーカイブ動画配信を行う。小中高が連携した英語教育の一層の充実を目指す。

令和 8 年度 山梨県 英語教育改善プラン

全県の高等学校における授業改善及び学習改善を通して、4 技能をバランスよく育成し、生徒の英語力向上を確実に図る。

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7実態：49.8%⇒R8目標値：55.0%、R9目標値：60.0%）
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7実態：26.6%⇒R8目標値：28.0%、R9目標値：30.0%）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

＜英語実施状況調査より＞

- ①授業における生徒の英語による言語活動の実施率（授業の50%以上の時間での実施）が増加した。
【64.8%（R5）⇒72.8%（R6）】
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。
【24.3%（R6）⇒26.6%（R7）】
- ③求められる英語力（CEFR B2レベル相当以上）を有する教師の割合が増加した。
【81.4%（R5）⇒87.2%（R6）⇒91.0%（R7）】

- ①言語活動の実施率は増加したものの、言語活動の内訳（全体を10とする）に偏りがある。
【聞く:1.62 読む:2.62 話す〔やり取り〕:1.76 話す〔発表〕:1.51 書く:2.49（R6）】
- ②授業における、教師の英語使用状況の割合（発話の50%以上）が減少した。
【55.6%（R6）⇒38.6%（R7）】
- ③パフォーマンステストの実施率が年度によってばらつきがある。
【54.4%（R4）⇒37.9%（R5）⇒50.6%（R6）】

2. 要因分析

- ①②R3～5における県事業の授業実践や現在行われている英語授業改善推進事業において、授業改善・学習改善の取組が進んだと思われる。また、成果報告会や各種研修により、全県にその取組が波及しつつあると考えられる。さらに、研修会や教科訪問等において、授業改善の重要性や具体的な実践例等を共有したことにより、各校における授業改善が図られたと考えられる。
- ③教師向けの各種研修会を通して、自らの英語力に対する意識が向上したと考えられる。

- ①②学年が上がるにつれて学習内容が高度化し、言語活動の実施率が減少するとともに、言語活動が「読むこと」と「書くこと」に偏る傾向がある。その結果、4技能のバランスの取れた指導が十分に行われず、教師の英語使用の減少の一因ともなっていると考えられる。
- ③全ての学校でCAN-DOリストは設定されているものの、それをベースとした指導と評価の一体化がなされていない。そのため、パフォーマンステストが単元の到達目標に明確に位置づけられていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③に基づき継続する施策・事業
- ・各事業に基づく指定校の授業実践事例や提案授業動画等を教育課程研究集会や各種研修会等で活用し、過去の実践を基に言語活動の量だけでなく、その質についても考える機会を設ける。
- ・英語担当教師に「4県合同自治体連携アライアンス研修会」、「Yamanashi English Actionオンライン学習会」への参加を継続して督促し、授業改善と指導改善に対する意識の向上を図る。
- ・「グローバルリーダー育成国内留学推進事業」により、グローバルに活躍することが期待される層の生徒の英語力向上を図る。

改善が不十分だった要因に基づき行う施策・事業

- ①②「英語授業改善推進事業」
- ・研究指定校を指定し、統合的な言語活動を通して4技能をバランスよく育成する効果的な指導と評価のあり方の研究と、組織的な授業改善を依頼する。また、研究指定校の取組を各種研修会等で各校に周知する。
- ③全県的な指導と評価の一体化の推進
- ・指導主事による教科訪問において、学習指導案に代えて「授業デザインシート」を作成してもらうことで、目標と指導と評価の一体化や生徒主体の授業に焦点を当てた授業参観と研究協議を実施する。
- ・総合教育センターと連携し、「外国語科授業力アップ研修」においてCAN-DOリストの活用方法やパフォーマンステストについての具体的な指導方法を示すことで、目標と指導と評価の一体化を推進し、生徒の英語力の向上を図る。
- ・教育課程研究集会外国語部会で、各校のパフォーマンステストを持ち寄り研究協議を行うとともに、それらをアーカイブ化して各校で活用できるようにする。

山梨県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	50.4	54	47.9	52	49.8	55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	22.8	24.6	24.3	26	26.6	28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	64.8	65	72.8	73		74		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		55	37.9	45	50.6	65		65		65	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	90	78.4	92		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	80	70.3	82		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	81.4	82	87.2	88	91.0	89		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		58	58.2	60	55.6	65	38.6	65		65	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	42	44	42.2	46	47.5	48		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	75.5	80		83		86		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		95	86.9	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	75	60.8	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	85	81	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	37	39	37.3	41	53.2	43		45	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	75.1	79		81		83		85	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	60	63.6	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	90	90.9	100		100		100		100	